

挨拶

校長 吉田 隆

三十六年前、新採用教員として赴任した学校の校長先生から次のような指導を受けました。

吉田先生は電車通勤だね。駅から学校までの間、すれ違う人全員に挨拶しなさい。

雪深い田舎の学校でしたが、駅から学校までの道中、二十人以上とすれ違います。新潟市生まれの私にとって、街の中ですれ違う人の多くは見知らぬ人ですから、その全員に挨拶することなど、考えたことすらありませんでした。

「恥ずかしいなあ。」と思いつつも、校長先生の命に従い、「おはようございます」「さようなら」と、朝夕実行しました。はじめは、「この若者は誰だろう？」という感じでした。しかし、四月に赴任した新採用教員だと分かると「おはようございます。学校に慣れましたか。」「さようなら。遅くまでご苦労様。」などと声を掛けてくださるようになります。

そして、一年も経つ頃には、「若いけど礼儀正しい先生だ。」と有り難い評判が立つようになりました。挨拶が、私の教員としての未熟さを救ってくれたに違いありません。

一月の生活目標は、「心をこめてあいさつしぐさ」でした。冬休みの関係で授業日が少なかったこともあり、もつと良い挨拶ができる手前で一月を終えた感がありました。

二月の全校朝会で、子どもたちに「元気で明るい挨拶ができたかどうか」をABCの三段階で聞いてみました。案の定Aはわずか三割程度でした（とても正直な子どもたちです）。そして、上記のエピソードを紹介し、挨拶は人と人とのつながりを深める意味で、大人になってからも、地域のお付き合いや仕事上でも身に付けるべき大切な習慣であることを伝えました。

そこで、二月の生活目標も「心をこめてあいさつしぐさ」を継続することとしました。下旬に「六年生ありがとう週間」が行われることに合わせ、副題は「ありがとうの気持ちを大切に」です。

この学校便りが届く二月末には、感謝の気持ちを乗せた元気で明るい挨拶が、学校にこだましていることでしょう。各ご家庭でも、生活習慣の基本である「早寝・早起き・朝ご飯」と合わせて、毎日、明るい挨拶を響かせてほしいと思います。